

JNEPnews

Japan Network for Earth Environment and Prevention of Pollution (JNEP)

公害・地球環境問題懇談会

google で検索 → jnep.jp

第48回全国公害被害者総行動



目次

第48回全国公害被害者総行動	
全国公害被害者総行動アピール	2
日比谷コンベンションホール連帯集会.....	3
日本を脆弱化し 南海トラフ大震災を激甚化するリニア中央新幹線.....	5
第28回「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」	7
活動日誌.....	8

全国公害被害者総行動アピール

第1回全国公害被害者総行動が展開されたのは47年前です。当時、公害被害者は厳しい逆風にさらされていました。財界・政府が「公害は終わった」と喧伝し、組織的・系統的な攻撃を加えてきたのです。全国各地の公害被害者が立ち上がり、連帯して財界・政府に対する反撃の狼煙を上げたのが47年前、1976年6月のことです。以来、環境大臣との直接交渉や各省庁・加害企業・企業連合体との一斉交渉などを毎年もち、情勢を切り拓いてきました。

利潤追求を優先させて、国民の生命、健康、自然環境を蔑ろにする企業と行政の姿勢は当時も今も変わりません。公害被害者は連帯して財界と政府に立ち向かっています。

公害の原点・水俣病は1956年5月の公式確認から67年が経過しました。被害者を切り捨てようとする政府と対決し、ノーモア・ミナマタ第2次国賠訴訟をたたかっています。大気汚染公害患者は、各地の訴訟が終結したのちも、公害患者の医療費救済制度を国が創設し、メーカー各社が救済制度につき相応の財源負担をすることなどを求めてたたかいを進めています。基地公害をめぐっては、米軍機や自衛隊機による爆音被害が続き、さらに事故や落下物が頻発して周辺住民の生活と命が脅かされています。環境を破壊し安全性を欠いたりニア中央新幹線もJR東海と国を被告とする訴訟が進んでいます。カネミ油症被害は事件発生から半世紀を超えた今も多く、の被害者(次世代や次々世代にも被害が及ぶ)が未認定のままです。

福島第一原発事故から12年余が経過しました。昨年3月には東京電力の法的責任が最高裁で確定し、判決を踏まえて原発賠償紛争審査会は賠償基準を見直した中間指針第5次追補を発表し、東京電力はこの指針に従った追加賠償を行おうとしています。これは、原発事故被害者をはじめとした国民のたたかいの大きな成果と言えます。他方、昨年6月17日、最高裁第2小法廷は、国の責任を免罪する不当な判決を出しました。三浦守裁判官の反対意見と比べ、多数意見は説得力を欠く結論ありきの判決理由で、事故の再発防止責任もあいまいにした下で、政府の原発依存・推進政策にお墨付きを与えるものです。今、この不当判決を乗り越える不屈のたたかいが全国で始まっています。

また、諫早湾干拓事業問題で最高裁は、諫早湾開門確定判決に基づく強制執行に関する福岡高裁請求異議差戻不当判決について、漁業者らの上告棄却及び不受理決定をくだしました。この判決は、確定判決に基づく強制執行を不合理な事情変更の事実を認定し、結論ありきの姿勢で権利濫用法理を持ち出し、漁業者らの権利を切り捨てたもので、民事訴訟制度の根幹を揺るがす不当判決です。

ことしの公害被害者総行動は、ロシアが引き起こしたウクライナでの戦争が継続し出口の見えない状態のなかで行われます。戦争は最大最悪の環境破壊です。公害総行動は47年前から一貫して戦争に反対してきました。今回のロシアの軍事侵攻を強く非難し、この戦争に断固反対します。

わたしたちは、公害被害者の切り捨てや環境破壊を許さず、次世代にきれいな環境を引き継ぐため、国民の皆さんと団結して前進することを訴えます。

2023年 6月7日第48回全国公害被害者総行動交流集会参加者一同

全国公害被害者総行動

日比谷コンベンションホール連帯集会

○司会

ノーモア・フクシマ いわき市民訴訟
原告団東京事務所 斎藤裕幸さん
川崎公害患者と家族の会 堀田恵子さん

○開会挨拶

水俣病不知火患者会会長、公害総行動
実行委員会代表委員 岩崎明男さん



○カネミ油症被害者全国連絡会 事務局長
三苦哲也(みとまてつや)さん



参加団体のリレートーク

○イタイイタイ病対策協議会会長、
小松雅子さん



○原発訴訟 ノーモアフクシマ
いわき市民訴訟原告団長 伊東達也さん
生業訴訟原告団団長 中島 孝さん
津島訴訟原告団長 今野秀則さん

○よみがえれ！有明訴訟

○水俣病、

ノーモア・ミナマタ第2次近畿訴訟弁護団
徳井義幸団長
ノーモア・ミナマタ第2次近畿訴訟原告
本(もと)良夫さん
水俣、東京、新潟の原告団のみなさん



○大気汚染 東京公害患者と家族の会会長・
公害裁定申請団団長 石川牧子さん



○建設アスベスト訴訟統一本部事務局長
清水謙一さん



○基地爆音訴訟 第3次新横田基地公害訴訟
団長 奥村博さん



○化学兵器被害解決ネットワークの事務局長
大谷猛夫さん

○道路全国連 丸山重威(しげたけ)さん
比留間哲生(ひるまてつお)さん



○公害・地球懇 事務局長 長谷川茂雄さん



○連帯あいさつ
日本環境会議 寺西俊一理事長



スモン公害センター 鈴木堯博理事長



○集会アピールの提案
増田重美 公害総行動実行委員会事務局長

○閉会挨拶 伊東達也 代表委員



日本を脆弱化し 南海トラフ大震災を激甚化するリニア中央新幹線

神戸大学名誉教授 石橋克彦 (地震学者)



はじめに

リニアは地震に対して弱いのではないかと 多くの方は思っていますが、JR東海は何も説明しませんし、専門家からの本格的な指摘や議論もこれまでありませんでした。多くの国民にリニアと地震との関係を知っていただき、私の説明がリニア訴訟をたたかう皆さんの応援につながるようにお話しします。南海トラフ地震は、リニアの建設中、供用中に必ず起きます。このことについて地震研究者からの異論はないと思います。

南海地震は日本社会に大被害をもたらす

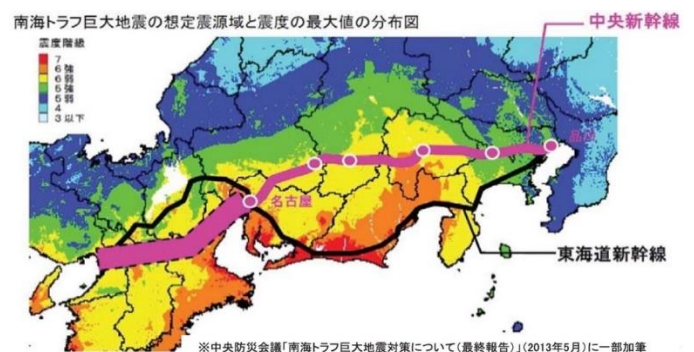
南海地震は日本に大きな被害をもたらします。いまの文明はそれ以前とは全く様相が異なります。西欧主義、資本主義を二本柱にして、戦前は軍事大国、戦後は経済大国をめざして日本は進んできました。この間南海トラフ地震は起きていませんでした。この地震は広域大震災になるわけですから、高度成長を遂げた日本の近代社会が大きな影響を被ることになります。

リニア新幹線で基本的な問題だと考えるのは、第一に資本や権力に支配された科学技術が人間を幸せにできないこと、第二に長期的な日本社会の望ましい在り方を壊すやり方では不均衡な国土を形成し、人口分布の偏在や人口減少を助長するということです。

日本は現在、将来にわたって深刻な問題を多く抱えています。食糧の海外依存、止まらない少子化などです。東京・名古屋・大阪への人口集中を促し、地方の過疎化をもたらすリニアがめざす方向は、このような深刻な問題を広げることになります。リニア裁判も問題にしていると思いますが、リニア事業の問題がある特徴は以下です。

- 経済性・長期的安全性・環境適応性を損ない、民営が国策をのっとるような「国策民営」、御用学者によるずさんな審議
 - 事業主体であるJR東海の国民・住民無視の姿勢と情報の隠蔽
 - 環境アセスの甚だしい不足
 - メディアの低調報道やリニア批判の放棄
 - 深刻な事故の危険性と乗客避難の困難性など
- 「リニアは被災せず」は考えられない

この地図は南海トラフ地震による日本列島の震度分布図です。東海道新幹線は南海トラフ地震の震源域に近い太平洋岸を走っています。地震が起きれば東海道新幹線は大きな影響を受けるでしょう。だからパイパスとしてのリニア新幹線が必要だと言いますが、この地震でリニアも被災するのです。リニアが無傷で代替機能を果たせるとは到底考えられません。



そして、リニアがなければ起こりえないような被害が発生する可能性が高いのです。リニアが被災すれば一編成当たり千人の乗客の救援体制が必要になりますし、災害後の避難・救助・復旧活動を進めるために物資を運ぶ必要がありますが、リニアは構造上から重い貨物は運べません。

地下だから安全とは言えない

これまでの1000年間に8 から9 回起きている巨大地震はどのように発生するのか。地下の地層がずれて岩石を破壊していきます。その破壊は面的に広がります。その地震動生成域から伝わる振動も毎秒2.~3キロという猛烈な速さで四方八方に伝わります。ずれ破壊の規模(大きさ)をM(マグニチュード)と言いますが、東日本大震災は M9.1でした。M が1増えると30倍の規模になります。南海トラフ地震を取り上げた先日のテレビ番組で専門家が、「千年に起きるかもしれない地震であり、震度分布も最大値に予測したものだ」と解説していました。この地震が今後30年間に70~80%の確率で起きるということに異論を唱える専門家はいません。M 9の地震となれば震度分布の数字が最大だと言いきることは出来ません。

リニアには巨大地震に対する備えがない

南海トラフ地震の震度分布図で見られるように、リニアは震度6弱~7の地域を時速500キロで激走するという地球で一番危険な乗り物です。ガイドウェイで囲まれた中間をリニアは浮上して走行し地震の際もガイドウェイに接触せず静止すると説明されています。でもリニアは急には止まりません。車体とガイドウェイの揺れが同調しない場合に、様々な車体がガイドウェイに接触して押し倒したり脱線したりするのではないのでしょうか。JR東海は地下のほうが地震に対しては地表より影響はないと説明していますが、阪神淡路大震災では鉄道の地下施設が破壊され、中越地震ではトンネル内で新幹線が脱線、さらに地上でも、東日本大震災や熊本地震では東北新幹線や九州新幹線が脱線しています。

トンネル内でリニアが止まった場合、救助隊は現場にすぐには来ません。巨大地震による岩盤の破壊は地下水にも影響します。

いたるところにある帯水層がずれて破壊された岩盤の隙間を通りトンネルを破壊するか地表に噴出する恐れがあります。先ほど触れましたが、トンネル内で被災し停車したリニアの乗客の避難ですが、地元の救助隊は地元住民の救出や避難を優先します。

静岡県の西俣非常口付近の地図を示しますが、この非常口は南アルプスの山の中です。冬は雪が積もります。ここに脱出しても救助の手は遅れます。極寒の中、長時間待つことは不可能です。また3人の乗務員が千人の避難を行える可能性は低い。だからJR東海は「乗客同士で助け合い」などと言っているのです。「地下は地震に対して安全だ」というリニアには地震対策がないのです。

終わりに~リニアは哲学なき科学技術が社会にもたらす災厄な事例の一つ

リニアによって三大都市圏を一体化し世界最大の巨大経済圏とする「メガリージョン構想」は、ポスト・コロナ、超巨大地震の前夜の今後において時代錯誤です。リニア工事は少なくとも一旦中止し、必要性・安全性・環境負荷等について国民的議論を行い再考すべきです。JR東海には、リニアの技術的・財政的情報を詳細に公開し、国民住民の質問・疑問に誠実に答えることが求められます。このまま行くと、リニアは哲学なき科学技術が社会に災厄をもたらす事例の一つとなるでしょう。リニアを止めましょう。

記念講演

~立ち往生するリニア建設~ストップ! 訴訟の勝利判決に向けて 5月29日、衆議院第一議員会館院内集会
この記念講演要旨は、ストップ・リニア! 訴訟ニュース第33号を転載しました。

第28回「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」

公害・地球懇常任幹事 橋本良仁

5月21日(日)、川崎公害病患者と家族の会が呼びかけた第28回「公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」実行委員会は、参加団体がJR溝ノ口駅前ペDESTロリアンデッキで展示ブースを出し、各団体は以下のテーマについて市民に訴え、参加者はお互いの交流を深めました。

今年のテーマは以下の通りです。

- 軍拡競争より9条を生かし、平和外交を
- 戦争は最大の環境破壊であり、人権破壊だ
- 原発は危険、温暖化対策にも無力
- ぜんそく患者の医療費助成制度廃止反対

公害・地球懇からは奥田さが子、田中史子、橋本良仁の三人とFFF Tokyoからは大学生1人、高校生2人が参加しました。ブースでは温暖化問題のポスターを展示し、フクシマ現地調査のDVDやパンフレットの頒布も行いました。また、岸田政権の原発推進政策の撤回を求める署名を集めながら、参加者と交流しました。

川崎フェスタの感想

FFF Tokyo S.R. (高校1年生)

公害フェスタでは、原発の展示を見たり、水俣病の被害者を撮影しているフォトグラファーの方とお話をしたりと、学んだことがたくさんあり、私にとって刺激的な1日でした。

あのような場で環境を訴えるようなスピーチをするのは初めてだったのでとても緊張していました。



お昼時、各団体は設営された簡易舞台上で7分間のスピーチを行いました。私たちはFFF Tokyoの高校生二人とCOP21の会場ですった白熊ぼうしを着用して差し迫った温暖化対策の緊急性、重要性を訴えました。私は公害・地球懇の活動を紹介し、若い二人の高校生にバトンタッチ、高校生のスピーチは未来世代に危機が迫っていること、日本政府が他の先進国の温暖化対策に比べて余りにも遅れていることをうつつたえ、とりわけ原発や石炭火力に依存しない政策をともに進めようとよびかけて、参加者から賛同の大きな拍手が送られました。

しかし、あの場でスピーチをしたことで、原発被害を訴える方や議員の方など新たな出会いがあり、とてもいい機会になりました。

初めてのビラ配りにも挑戦しました。しかし、私と同世代の人たちはあまりもらってくれません。未来を創る私たち若者はもっと関心を持たなければならないと危機感を持ちました。

新たな気づきや出会いがあるような最高の1日を与えてくださった公害・地球懇の皆様大変ありがとうございました。

JNEP 2023 総会のお知らせ

【日時】2023年6月25日（日）15時～17時30分

【リアル会場】新宿御苑 公害センター

【オンライン用リンク】

トピック: 公害・地球環境問題懇談会 総会のZoomミーティング

時間: 2023年6月25日 15時より 大阪、札幌、東京

Zoomミーティングに参加する

<https://us02web.zoom.us/j/89350875571?pwd=YXM4OXUzWEFNMHdpQWh2RGVsQlMxdz09>

ミーティングID: 893 5087 5571

活動日誌

5月

21日(日)公害・環境・健康まちづくり
フェスタ

29日(月)ストップ・リニア集会
衆議院第一議員会館院内

6月

6日(火)全国公害被害者総行動実行委員会

7日(水)公害総行動1日目 連帯集会
(日比谷コンベンションホール)

8日(木)公害総行動2日目

14日(水)公害総行動3日目

14日(水)子ども甲状腺訴訟

15日(木)公害総行動4日目

今後の日程

6月

20日(火)東京高裁101号 福島原発被害
東京訴訟控訴審(結審) 14時～

21日(水)東京高裁101号 福島原発被害
千葉避難者訴訟第2陣控訴審(結審)
14時～

24日(土)国際環境影響評価学会(IAIA)
日本支部主催

オンラインシンポジウム

「神宮外苑再開発計画はSDGsに
適うかー環境アセスメントの
あり方を問うー」

<https://www.cuc.ac.jp/event/2023/0624symposium.html>

25日(日)JNEP総会

29日(木)東京地裁103号

神宮外苑訴訟 第1回弁論 11時～

30日(金)原発と人権 事務局会議 16時～

7月

10日(月)原発と人権 実行委員会 16時～

18日(火)東京地裁103号 リニア訴訟判決
言い渡し 14時～

25日(火)総行動事務局会議 13時半～

発行 : 公害・地球環境問題懇談会
(公害・地球懇/JNEP)

連絡先 : 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-3
サニーシティ新宿御苑10F
TEL 03-3352-3663

FAX 03-3352-9476

郵便振替 : 00140-1-80892

URL : google → jnep.jp